

第4節 宝満山遺跡群の調査

1. 宝満山の研究史

宝満山の本格的な研究は修験者が離山した後の近代に始まる。明治24年(1891)に船曳鉄門の説に従い、福岡県等により山中の福城窟(法城窟)が宝満山の祭神玉依姫の陵墓として学術調査が実施された。山内での学術調査の嚆矢と位置づけられる。また、宝満山の総合的な書物として、明治30年(1897)に本田豊宮司が著した『竈門山記』(竈門神社蔵)があげられる。これには竈門神社の由緒・沿革と竈門山(宝満山)の名勝古跡についてまとめて紹介されている。

本格的な学術調査は昭和35年(1960)に太宰府天満宮宮司西高辻信貞が中心となり宝満山文化総合調査会を立ち上げ、考古、文献、民俗の専門家が集められ資料を収集したことに始まる。この調査の考古学的成果は、昭和57年(1982)に小田富士雄編『宝満山の地宝』として発表されたが、その他の部門については成果があげられないまま、諸般の事情により終了した。

また、昭和43年(1968)には上宮座主跡のキャンプセンター建設に伴う発掘調査(調査期間は1月18日～1月30日、調査主体は竈門神社、調査者は福岡県教育委員会)が実施された。同年信貞宮司により開設された太宰府天満宮文化研究所により、宝満山を含め太宰府の歴史が研究されていった。信貞宮司は、改めて宝満山の通史的な歴史編纂を大分県立芸術短期大学の中野幡能に依頼した。その成果は昭和55年(1981)に『筑前国宝満山信仰史の研究』の出版という形で公開された。また同研究所員であった森弘子により、昭和50年(1975)に『宝満山歴史散歩』葦書房が刊行され、広く市民に宝満山の歴史が知られることになった。

この時期の考古学的な視点は、信仰の山の古代を中心とし、その成果は神社の占有する下宮、中宮、上宮、修験者の坊跡を中心とした遺跡の様相で捉えられていた。しかし、昭和58年(1983)におこなわれた太宰府顕彰会による宝満山遺跡全域における地形測量調査および、太宰府天満宮文化研究所の悉皆的な遺物分布調査により、いままで対象とされていなかった山中の諸所に古代から近世に至る遺跡の存在が確認されるに至り、それまで文献史学が提示していた中世寺院から修験道の段階の宝満山の様相を遺跡調査によって解明しうる可能性を提示した。

昭和60年代頃から太宰府市側では、送電線の設置などを皮切りに立て続いて民間開発による緊急調査が増加し、山麓部を中心に考古学的成果が蓄積されていった。平成10年(1998)に実施した21次調査地点を内山辛野遺跡として、平成16年(2004)1月に太宰府市の史跡に指定した。

また、太宰府市は平成15年(2003)7月19日早暁の集中豪雨によって、山中の100を超える箇所ですり落ちが発生し、近世の坊跡とされてきた箇所では大規模に石垣が崩壊するなどしたことから、山中の遺構について詳細な位置や構造などの情報を把握するため、平成17年度から同21年度までの5カ年計画で、国庫補助事業として山中の悉皆的な遺構探索をおこない、1/2,500図に個々の遺構をプロットする事業を実施した。加えて宝満山を代表する既知の主要遺跡として掲げられる伝有智山城土塁および周辺の図化(31,32次)、本谷(妙見祠)礎石群の確認調査(34次)、宝満山下宮礎石群の確認調査(37次)、中宮跡周辺の地形測量調査(38次)を実施した。これによって山林で遺跡の把握が遅れていた部分において遺構の所在が明確となり、主要遺跡については毀損の事態に対応するための基礎的な図が完成した。

また、平成になって山村信榮(2004、2005、2013)により、埋蔵文化財の発掘調査の成果を元にした宝満山遺跡群のモデルが提示された。岡寺良(2008)、下高大輔(2008)による山中の縄張り図の作図が進み、山中の平面利用を想定する取り組みも進んだ。平成20年(2008)には森弘子による『宝満山の環境歴史学的研究』が出版され環境歴史学という新しい視点による研究がなされ、宝満山研究の1つの到達点と評価されている。

以上、宝満山の研究は、明治期の研究段階から、昭和期における太宰府天満宮西高辻信貞宮司による宝満山文化総合調査会を経て太宰府天満宮文化研究所の取り組みを基礎として、昭和60年代から急増する考古学的成果の蓄積を踏まえて宝満山信仰史の総合的な研究が進められている。

主な論攷・調査報告書一覧

- 中野幡能『筑前国宝満山信仰史の研究』1980年 太宰府天満宮文化研究所
 小田富士雄編『宝満山の地宝』1982年 財団法人太宰府顕彰会（宝満山総合文化調査のうち1次聞き取り、踏査、2次調査上宮祭祀トレンチ調査、法城窟トレンチ調査、下宮礎石群平板測量調査、3次下宮礎石群トレンチ調査）
 小田富士雄監修・小西信二編『宝満山及び竈門神社周辺の遺跡分布調査報告書』1984年 財団法人太宰府顕彰会
 小田富士雄・武末純一『宝満山の地宝拾遺』1983年 財団法人太宰府顕彰会
 『宝満山遺跡』1989年 太宰府市教育委員会（宝満1-7次調査）
 『宝満山遺跡群II』1997年 太宰府市教育委員会（宝満14,16,18次）
 『宝満山遺跡群III』2001年 太宰府市教育委員会（宝満11,21次）
 『宝満山遺跡群4』2005年 太宰府市教育委員会（宝満8,9,10,12,13,15,17,19,20,22,24-29次）
 『宝満山遺跡群5』2006年 太宰府市教育委員会（宝満30次）
 『宝満山遺跡群6』2010年 太宰府市教育委員会（宝満山遺跡群31-40次）
 『宝満山遺跡群7』2012年 太宰府市教育委員会（宝満山遺跡群42,43次）
 『宝満山総合報告書 - 福岡県太宰府市・筑紫野市所在の宝満山に関する文化財の総合報告 -』2013年 太宰府市教育委員会
 山村信榮「考古学から見た太宰府宝満山」『山の考古学通信 N017』2004年
 山村信榮「太宰府における国境祭祀と宝満山・有智山寺」『佛教藝術 282号』2005年 仏教芸術学会 毎日新聞社出版
 岡寺良「宝満山近世僧坊跡の調査と検討—山岳寺院の平面構造調査—」『九州歴史資料館研究論集 33』2008年 九州歴史資料館
 下高大輔「太宰府市所在愛嶽神社周辺の歴史的位置付け—山岳寺院の平面構造調査—」『年報太宰府学 2号』2008年 太宰府市公文書館
 森弘子『宝満山の環境歴史学的研究』2008年 財団法人太宰府顕彰会 岩田書店

2. 発掘調査

昭和61年度から平成23年度までの発掘調査の実績を以下に示す。

表3-1 発掘調査一覧

次数	元号	年度1	年度2	所在地	遺跡の内容	遺跡面積	調査面積	調査要因	報告書
1	昭和	61	1986	大字内山字ジル谷 1154-24	尾根頂部より奈良時代の須恵器坏出土。	1742	90	特別高圧送電線建設	1
2	昭和	61	1986	大字内山字本谷 793-44	尾根斜面より奈良時代須恵器坏と、旧石器時代ナイフ、縄文時代鋸歯出土。	1658	105	特別高圧送電線建設	1
3	昭和	61	1986	大字内山字本谷 728-8、743-4、762-3、780-24	火葬墓、区画溝、方形台状遺構。	1381	308.1	特別高圧送電線建設	1
4	昭和	61	1986	大字内山字南谷 214-2、218-2 太宰府市大字内山字中堂 22-3、22-4	中世土坑・堆積層、小金銅仏出土。	2126	499.6	特別高圧送電線建設	1
5	昭和	61	1986	大字太宰府字冷林 268-273	中世火葬土坑群。	1859	173.9	特別高圧送電線建設	1
6	昭和	61	1986	大字太宰府字冷林 268-272	尾根頂部より奈良時代の須恵器坏出土。	1418	50	特別高圧送電線建設	1
7	昭和	61	1986	大字内山字ジル谷 1154-6 外	中世、火葬墓、火葬場土坑、ピット。	6778	815.5	特別高圧送電線建設	1
8	平成	3	1991	大字南谷 5-9	中世火葬墓より数珠玉出土。	—	10	寺院造作	5
9	平成	3	1991	大字内山字大門 938	近世の田圃跡。	455	307	専用住宅建築	5
10	平成	4	1992	大字内山字大門 944-1	縄文時代晩期～14世紀の整地4面、ピット群。(坊跡)	360	270	専用住宅建築	5
11	平成	4	1992	大字内山字辛野 6-1 外	13～14世紀の墳墓3、ピット群、奈良包含層。	1000	225	寺院建築	3
12	平成	5	1993	大字内山字ジル谷 1049 外	平安末期の井戸、方形石組遺構。(坊跡)	1000	340	専用住宅建築	5
13	平成	5	1993	大字内山字地藏原 570-1 外	近世の竪穴遺構、焼土塊。	1920	772	宅地分譲	5
14	平成	5	1993	大字北谷字熊崎 639 外	焼土塊4基。(中世火葬施設か)	32000	1040	ダム建設	2
15	平成	6	1994	大字内山字地藏原 608-3	鎌倉後期の溝、屋外炉跡。(坊跡)	300	120	専用住宅建築	5
16	平成	6	1994	大字北谷字熊崎 694 外	平安後期の焼土塊。13～16世紀の墓群。	32000	3540	ダム建設	2
17	平成	6	1994	大字内山字地藏原 608-5、608-6	平安後期の掘立柱建物、土塊。(坊跡)	493	280	専用住宅建築	5
18	平成	7	1995	大字北谷 2-1 667-1	平安～室町期の焼土塊、廃棄土塊。(中世火葬施設か)	32333	3300	ダム建設	2
19	平成	8	1996	大字内山字大門 947-1	鎌倉前期の掘立柱建物、鍛冶工房 整地は平安後期から複数回に及ぶ。	495	434	専用住宅建築	5
20	平成	8	1996	大字北谷字イヤノ浦 577	平安時代末期の焼土塊。(坊跡)	1360	230	住宅建築	5
21	平成	10	1998	大字北谷 905-235 内山 5-4	石垣と階段、石庭を伴う館跡で鎌倉時代後半から南北朝初期に帰属する。当該期の有智山城の中核施設か。(坊跡) 平成16年度に市史跡指定。	23008	3400	寺院建築	3
22	平成	10	1998	大字北谷 126-1 126-3 128-1 128-3 150-1	炭焼窯跡。	10739	625	溜池堤体改修及び護岸	5
23	平成	11	1999	大字内山字野田 474、475、476、477、479、480、482、483、488 太宰府市大字内山字平田 509、510、511、512	製鉄精錬遺構、炭焼窯跡。	—	8474	国立博物館取付道路建設	4
24	平成	13	2001	大字内山 621-1、621-5、620、625-1、620、619、622-2、622-1、930	鎌倉時代後半頃の炉跡や作業面など鎌倉前期の掘立柱建物からなる鍛冶・鑄造工房と石敷遺構。(坊跡)	2608	560	田圃請	5
25	平成	13 14	2001 2002	大字内山字南谷 229-2、223の一部	近世から近代の水田開発の痕跡と中世の生活面。	918	1300	田圃請	5
26	平成	13	2001	大字内山字南谷 251 ほか	14世紀前半以降に焼失した可能性がある礎石建物2棟有智山寺の主要建物か	4326	265	耕地整理	5
27	平成	14	2002	大字内山字地藏原 621-1、621-5、620、625-1、620、619、622-2、622-1、930	古代～近世までの石垣・通行遺構(トレンチ調査)、平安末期・鎌倉の掘立柱建物各1棟。(1区) (坊跡と参道)	2608	485	田圃請	5
27-2	平成	15	2003	大字内山字地藏原 622-1	近現代の段造成、平安～鎌倉時代までの生活面。(坊跡)	809	382	田圃請	5
28	平成	14	2002	大字内山字南谷 223 の一部	鎌倉時代の区画溝や石築地、石敷遺構からなる推定坊跡。江戸後期に水田化。	918	392.3	田圃請	5

次数	元号	年度1	年度2	所在地	遺跡の内容	遺跡面積	調査面積	調査要因	報告書
29	平成	15	2003	大字北谷字小野 20	鎌倉時代の石垣及び石組で整然と区画割りを行った坊跡。鍛冶工房で甲冑、刀剣類製造か	3081	311	田普請	5
30	平成	17	2005	大字内山90の一部、95の一部、350の一部	8世紀前半の丘陵頂部祭祀、12世紀前半の経塚の複合遺跡。	13900	916.4	土砂採取、駐車場造成	6
31	平成	17	2005	大字内山字辛野 6-10	平安後期以降の土塁およびその前面に広がる人為的段造成面。	127000	25000	遺跡分布測量調査	7
32	平成	18	2006	大字内山字辛野	中世有智山(大山)寺、有智山城関連の悉皆調査。	850000	300000	遺跡分布測量調査	7
33	平成	19	2007	大字内山字野田 445-1	山中での祭祀に係わるキャンプサイト的な遺跡であった可能性が想定される。	567.6	467	工場建設	7
34	平成	19	2007	大字内山字本谷 780-1・16	平安前期の基壇と三間四方の礎石建物からなる寺院跡。	11035	1150	本谷礎石測量	7
35	平成	19	2007	大字内山、大字北谷	愛嶽の連続した段造成の一部は近世の坊跡のひとつであることが判明。	300000	300000	悉皆調査	7
36	平成	19	2007	大字内山 620、621、930	鎌倉期の坊跡・江戸後期の石垣・石積みによって形成された段造成。	479.41	243	農地改良工事	7
37	平成	20	2008	大字内山字御供屋 883、884	下宮礎石群の再調査。	893	747.5	重要遺構確認調査	7
38	平成	20	2008	大字内山字龍門山 2-1,2-2 他	宝満山中宮跡周辺の段造成面。(近世坊跡)	38400	38400	遺跡分布測量調査	7
39	平成	21	2009	大字内山字シル谷 1030,1032	11世紀後半～12世紀前半埋没の沢を利用した通路とピット群や土坑。(坊跡と参道)	1755	268	農地改良	7
40	平成	21	2009	大字内山字大門 927,929	平安時代後期～鎌倉時代にかけての坊跡と参道。金属生産に関係する炉跡。	320	165.4	農地改良	7
41	平成	21	2009	大字内山 68-4,68-8,75,78-2,78-3	丘陵の中腹へ点在する中世の墓群。	8000	324	グラウンド造成	—
42	平成	22	2010	大字内山 919-1、920-1、1642-2の一部	平安時代後期の礎石建物と基壇。近世以降の田畑の石垣。	980	877	造成	—
43	平成	23	2011	大字内山 883、884	龍門神社社務所基礎工事の立会と境内、石造品の実測、測量	700	-	社務所建替	—

報告書一覧

- 『宝満山遺跡』1989年 太宰府市教育委員会 (宝満 1-7次)
- 『宝満山遺跡群 II』1997年 太宰府市教育委員会 (宝満 14,16,18次)
- 『宝満山遺跡群 III』2001年 太宰府市教育委員会 (宝満 11,21次)
- 『宝満山遺跡群』2002年 福岡県教育委員会 (宝満山 23次)
- 『宝満山遺跡群 4』2005年 太宰府市教育委員会 (宝満 8,9,10,12,13,15,17,19,20,22,24-29次)
- 『宝満山遺跡群 5』2006年 太宰府市教育委員会 (宝満山 30次)
- 『宝満山遺跡群 6』2010年 太宰府市教育委員会 (宝満山遺跡群 31-40次)
- 『太宰府市史 考古資料編』1992年 太宰府市
- 『宝満山遺跡群 7』2012年 太宰府市教育委員会 (宝満山遺跡群 42,43次)

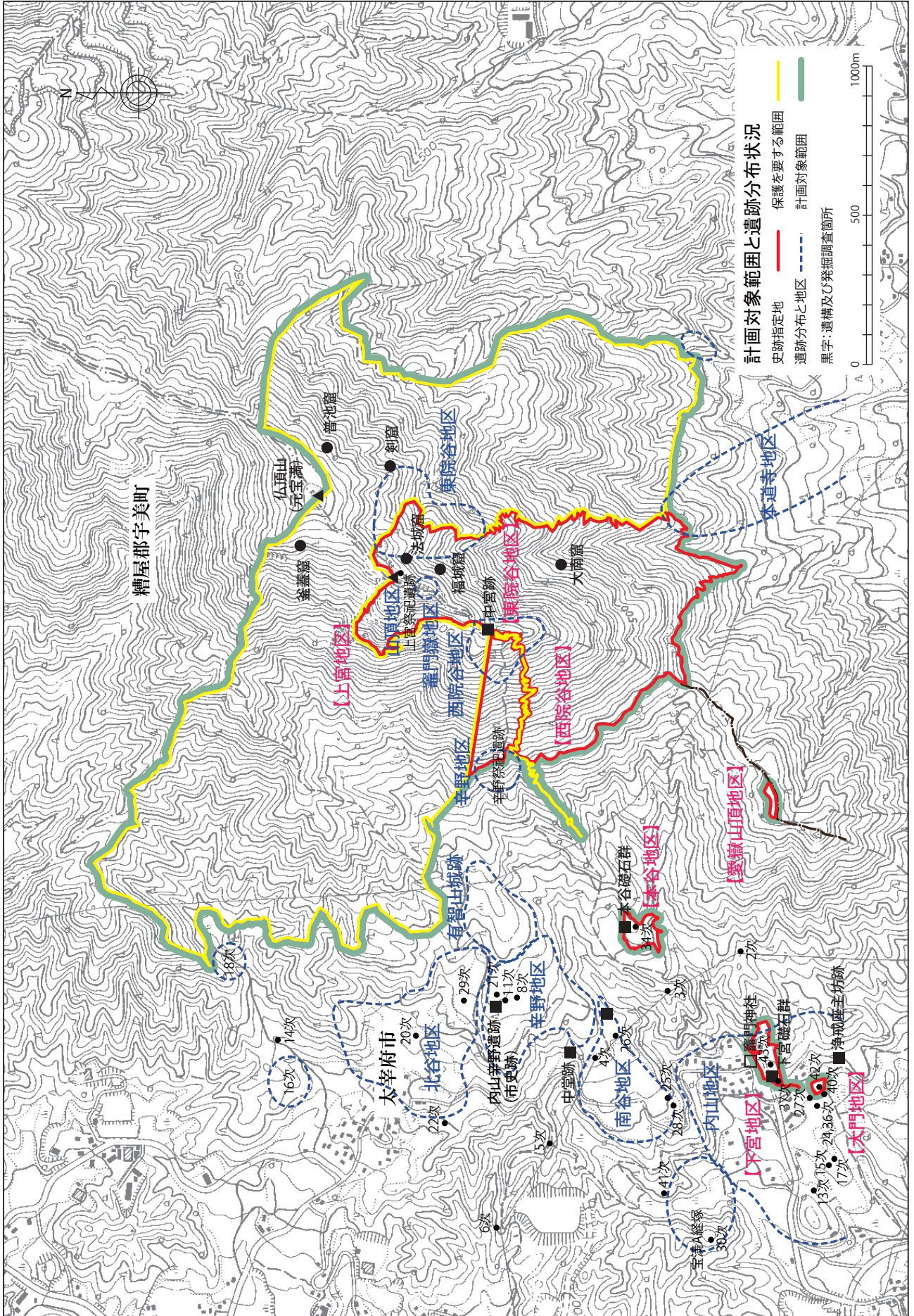


図 3-25 遺跡分布状況